

三勲小だより

令和2年9月18日（金）



<全校朝会（9月7日（月））の話>（校内放送）

大きい力をもった台風10号が日本に近づき、激しい雨が降ったり強い風が吹いたりしましたね。皆さんのお家は大丈夫でしたか。九州ではたくさんの方が体育館などに避難されています。今年はコロナの感染防止も考えなくてはならないので、避難所でも密にならないようにしなくてははいけません。また、たくさんの方が家が停電して、エアコンや扇風機が使えなくて熱中症も心配されています。これ以上被害が大きくならないことを心から祈りたいと思います。

さて、今日は、校長先生が「すごいなあ。」と感じた人を紹介します。この人です。誰か分かりますか。この人は、将棋で有名な藤井聡太さんと言います。今から4年前の彼が14歳2か月の時、将棋のプロ入り（四段昇段）を果たすと、そのまま1回も負けず29回連続で勝つという大記録をつかった人です。その後も、いろいろな大会で勝ちを重ね、この7月には史上最年少となる17歳11か月で『棋聖』というタイトルをとりました。また、この8月には『王位』というタイトルもとりました。ニュースでこの人のことを知った人も多いと思います。プロしか挑戦できない8つのタイトルのうち、2つも彼はとったのです。

校長先生が調べてみると、将棋をする人は、現在約680万人いるのだそうです。その中で「プロ」と呼ばれる人はだいたい160人～170人ぐらいだそうです。（だいたい4万人に1人ぐらいの割合）すごく少ないですね。プロになるためには、まず、15級からスタートして三段まで勝ち進まなければなりません。15級、14級、・・・・・・初段、二段、三段です。

藤井聡太さんが将棋を初めて知ったのが5歳の夏、おばあさんからまず将棋のルールを覚えてもらったそうです。彼は、瞬く間に将棋のルールを覚え、今度は将棋を指せるおじいちゃんが相手をしました。その年の秋になると、おじいちゃんは彼に歯が立たなくなったといいます。さらにすごいのは、その年の12月には、将棋教室に通い、その時に先生から渡された、500ページ近い将棋の本を、まだ読み書きができない6歳の彼は符号を頼りに読み進めて、1年後には完全に理解し覚えたといいます。小学校6年生の時には大人のプロ棋士も参加する大会で優勝し、それから5年続けて優勝しました。でも、彼がいつも考えているのは、タイトルを取るのではなく、どうやったら将棋が強くなるかということだけだそうです。校長先生は、始業式で鼓をたたいて、やってみようと思ったことを実行に移しましょうという話をしましたね。興味をもったことを進んで学び、何事もあきらめず最後まで一生懸命努力すると、皆さんも、藤井さんのように、自分が一生をかけて頑張りたいことが見つかるかもしれませんね。

最後に、今は友達と近くで大きい声でお話することができないし、マスクを着けていると表情も分かりにくいですね。でも、そんな中で気持ちを伝える方法があります。一つは「目でお話する」ということです。相手の目を見てごらんください。きっと「目でお話する」という意味が分かるはずですよ。もう一つは、いつも校長先生がお話している「会釈」をすることです。人とすれ違う時に、軽く頭を下げると、大きい声であいさつしたのと同じくらいかそれ以上に「こんにちは」とか「よろしく」とかいう気持ちが伝わるものです。「目でお話する」こと、「会釈」をすることをこれからも続けてやってみてくださいね。きっとお互いにとてもうれしい気持ちになりますよ。

